

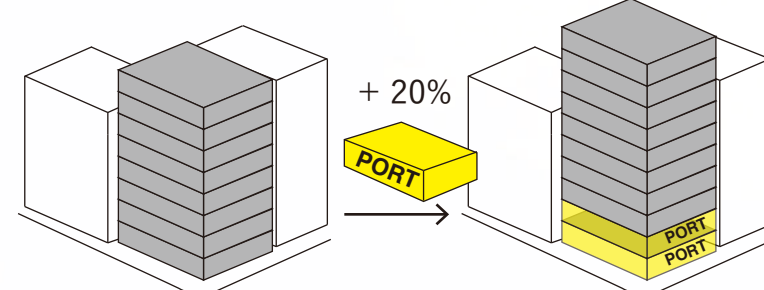
HUB SUNSHIN60 AVE. 自転車

コミュニティサイクルを用いた面的インフラ整備を担う観光拠点



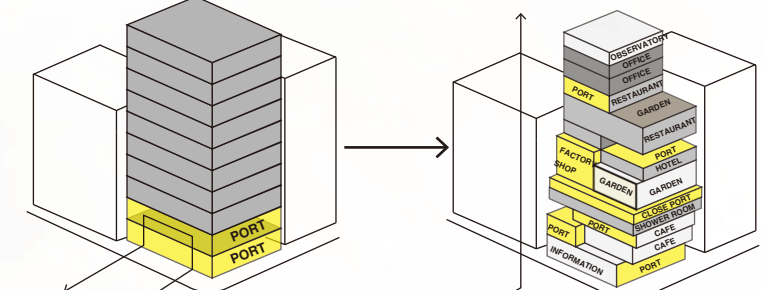
04.DESIGN CONCEPT

1. ポート（駐輪場）の複合により床面積を 20% 拡大



既存の敷地一杯に立ち上げた 4,136 m² のヴォリューム。
ポートは延べ床面積 1/5 まで算入されいため、約 827 m² の床面積の増加が可能になると考えることが出来る。

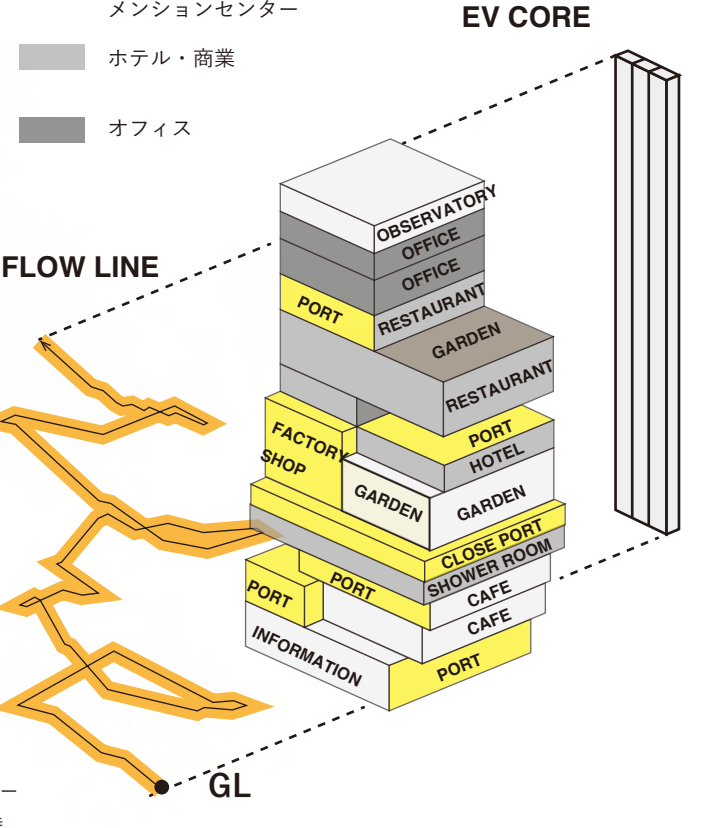
2. ポートの分散配置により立体回遊動線を構築



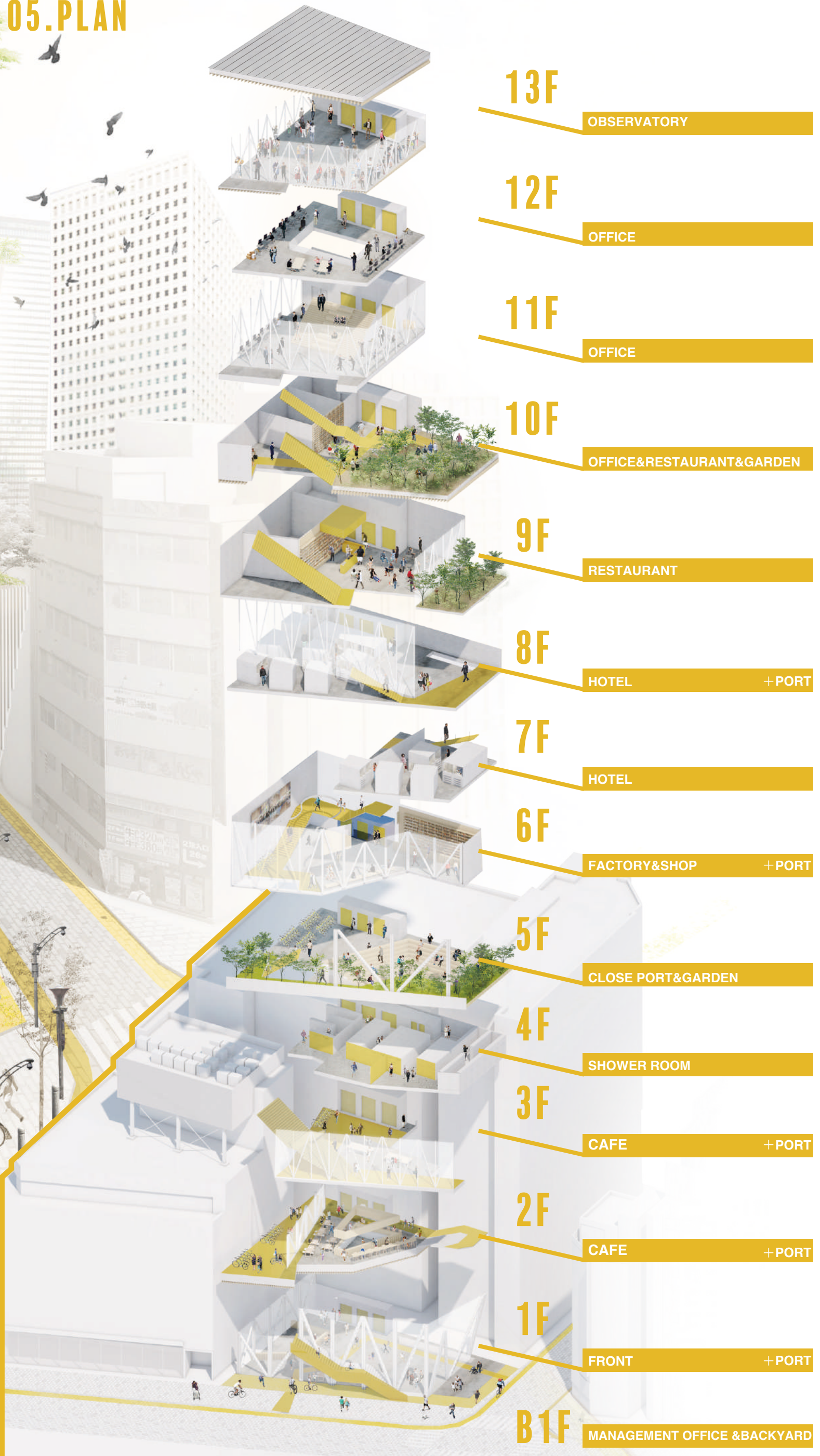
ポートを 1F に集約して配置した場合、合理的な動線となるが利用者が低層に停滞し、建築全体に回遊性が生まれにくくなり上層の収益施設の利用率が低下することが予想される。
ポートを上層の収益施設や観光施設に付加させるように配置することでも面客の回遊性生まれ、ポート利用者に他機能の利用を促す他、ポート使用時以外に収益空間を拡大させることが可能となる。

■構成ダイアグラム

- ・中心機能
- ポート（駐輪場）
- ホビー利用者含む
- ツーリストインフォメーションセンター
- メンションセンター
- ホテル・商業
- オフィス



05.PLAN



ファクトリー（ファクトリー）ではホビーユーザーとコミュニティサイクルが交わり、自転車のメンテナンスやカスタムを自由に行うことができ、カスタムされた自転車や部品がインテリアとなる。自転車を乗ることでポートの面積を他の用途としても利用可能な場となる。カプセルホテルからも抜けることができる大空間となっているため視線が交差し、利用客同士の交流が誘発される。



新し設置されるポート / 官民連携でシェアサイクルを行うことで既存のバス停と同様に道路沿いにポートの設置、サイクル専用レーンの整備が行え、利用者・広告効果の拡大が見込まれる。またポート屋根面にはソーラーパネルが設置され、スリッド式駐輪テーブルには込み込むことで太陽光から還元した電気によって電動自転車のバッテリーが充電される。



外部階段によって通りから迎えられる軒の深い屋根ができ、通りから人を引き込む。

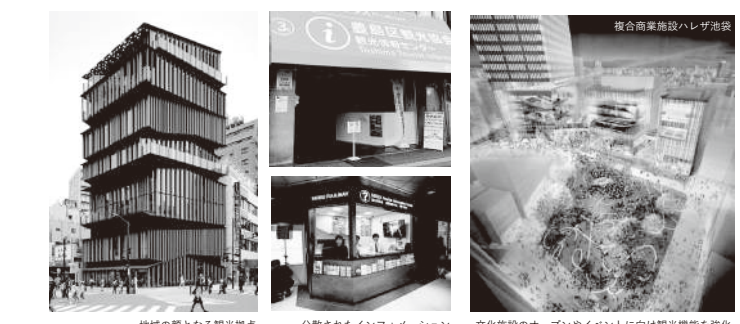


3F へ向かう階段から 2F のカフェを見る / カフェとポートが交わることで自転車で訪れるオフィス利用者と周辺企業への出勤者、シェアサイクルの利用者が交わり朝食の時は情報交換など交流の場として、また、コワーキングスペースとしても利用することが可能な空間となる。

01.PROGRAM

コミュニティサイクルに着目した観光拠点の創出と面的インフラ整備

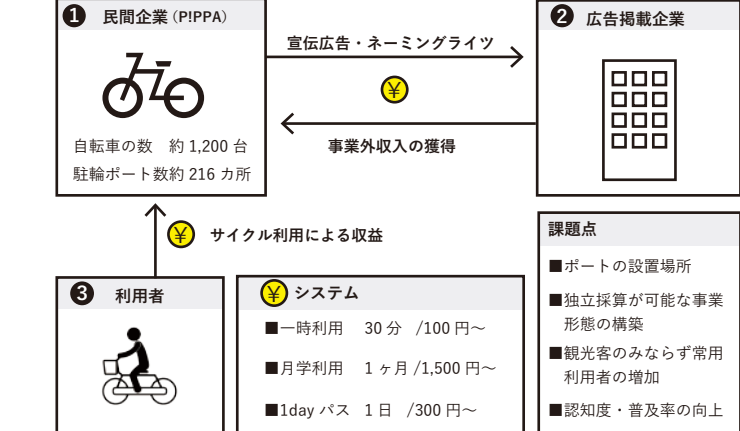
1. 観光拠点の創出と面的インフラ整備



池袋は今後、地域を象徴するような文化施設のオープンや東京オリビックなどのイベントの開催を控え、増加する国内からの来街客、シンパウンドに対する観光機能整備に重点的に取り組む必要がある。具体的には現在小規模に分散されている観光案内所の集約拠点を創出し求心力を高める他、線的なインフラの延長として区内の回遊性を高める環境時代に適した面的インフラ整備が必要とされる。

2. 民間運営のコミュニティサイクルに着目

■モデル企業「PIPPA」：現状の事業形態とスキーム



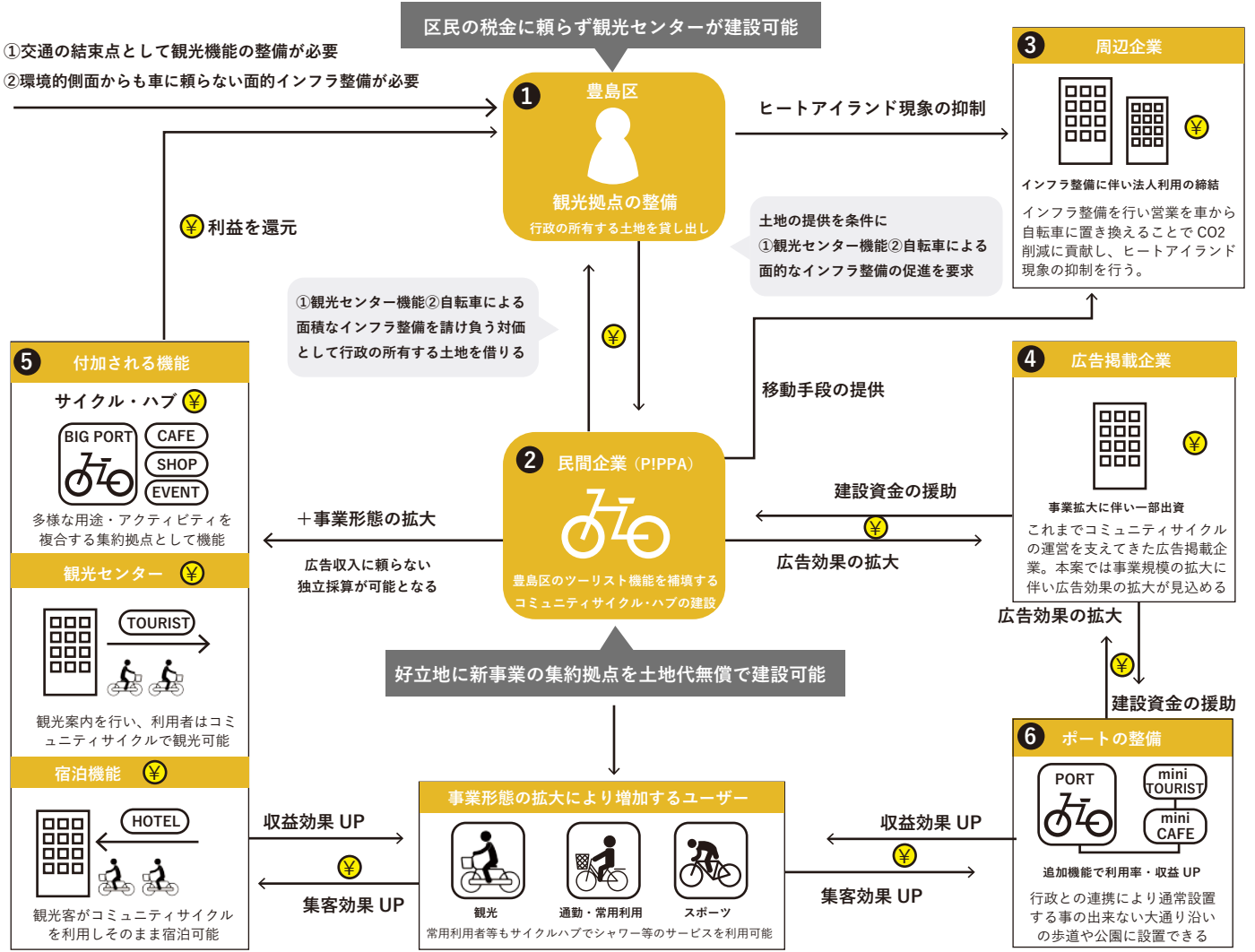
3. ツーリスト機能とコミュニティサイクルの複合



以上がリサーチから、豊島区のニーズとしての①観光拠点の創出②面的インフラ整備と、コミュニティサイクル事業のニーズである③コミュニティサイクルの普及④事業規模の拡大により独立採算が可能にするという双方のニーズを結び付けることで、豊島区の新たな象徴としての観光拠点を創出すると同時に、面的なインフラ整備が可能となり求心力の回遊性を高める事業スキームを構築する。これは主に観光機能や区内の回遊性を高めるだけでなく、サステイナブルな都市を構築するための整備を兼ねることとなる。

02.SCHEME

民間と行政のニーズの一致により生まれる官民連携事業

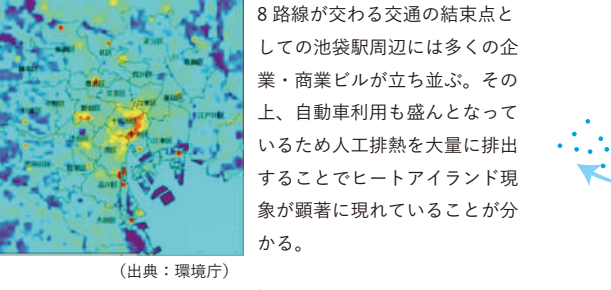


豊島区はコミュニティサイクル運営企業に①観光センター機能の付加、②自転車による面的なインフラ整備の促進を要求し、コミュニティサイクル運営企業はこれを受け負う対価として行政の所有する土地を無償で借り入れる。これにより、豊島区は区民の税金に頼らず観光機能の強化が可能となり、運営企業は好立地に商業機能付加した新事業の集約拠点を土地代無償で建設可能となる他、ポートにおいても行政との連携を図ることで大通り沿いのバス停の側面や公園等に設置可能となり、利用者・広告効果の拡大を図ることによって更なる出資や収益を得ることができ、独立採算の事業形態が確立される。

03.ENVIROMENT

サステイナブルな都市を構築する二つの環境操作

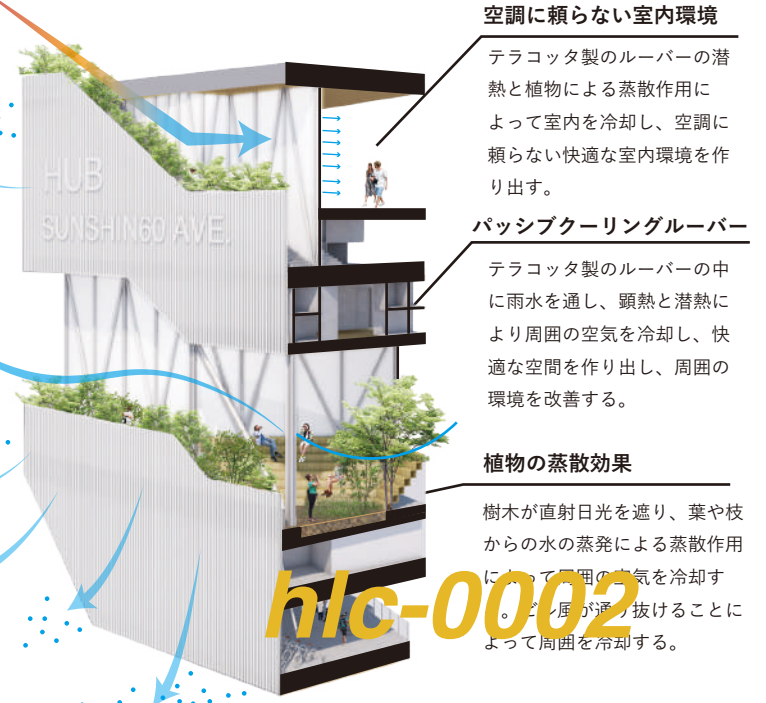
1. 面的インフラ整備による人口排熱の抑制



8 路線が交わる交通の結节点としての池袋駅周辺には多くの企業・商業ビルが立ち並び、その上、自動車利用も盛んとなっているため人工排熱を大量に排出することでヒートアイランド現象が顕著に現れていることが分かる。

（出典：環境庁）

2. ルーバーと植物で都市を冷やす



空間に頼らない室内環境
テラコッタ製のルーバーの遮熱と植物による蒸散作用によって室内を冷却し、空間に頼らない快適な室内環境を作り出す。
パッシブクーリングルーバー
テラコッタ製のルーバーの中に雨水を流通し、蒸散と植物により周囲の空気質を冷却し、快適な空間を作り出し、周囲の環境を改善する。
植物の蒸散効果
樹木が直射日光を遮り、葉や枝からの水の蒸発による蒸散作用により周囲の空気質を冷却することにより周囲の環境を改善する。

hlc-0002